

# 那珂川市立地適正化計画の策定に向けて

## 1. 立地適正化計画とは？

### 計画の背景

立地適正化計画の主な背景は、全国的な**人口減少・高齢化**です。将来の人口推計では、全国総人口は2065年には9千万人を割込み、高齢化率は38%以上になることが予測されています。

**人口減少や高齢化が進むと、一定の人口密度に支えられてきた商業・医療・交通等のサービスを維持することが難しくなります。**生活する上でも、利便性の低下やまちなみが悪化すると、まちの魅力が低下し、人口減少の加速化にもつながりかねません。

**SUPER MARKET**  
閉店

店舗や病院等の撤退  
身近な場所でサービスが受けられない

公共交通の減便や廃止

病院に行きたいけどバスがない・・・

公共サービスの質の低下

公園や道路などの公共施設の維持補修のための財源が確保できない

子どもを安全に遊ばせる場所がほしい。

空き家や空き地の発生

治安や景観が悪化する恐れも・・・

### 立地適正化計画により目指すまちの姿

立地適正化計画では、上記のような問題に備えるため、医療・商業・福祉施設や住居がまとまって立地する、便利で賑わいのある**拠点の形成**と、拠点同士をつなぐ**ネットワークの充実**を図ります。それにより、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいなどの身近に存在する「**多極ネットワーク型コンパクトシティ**」を目指すものです。

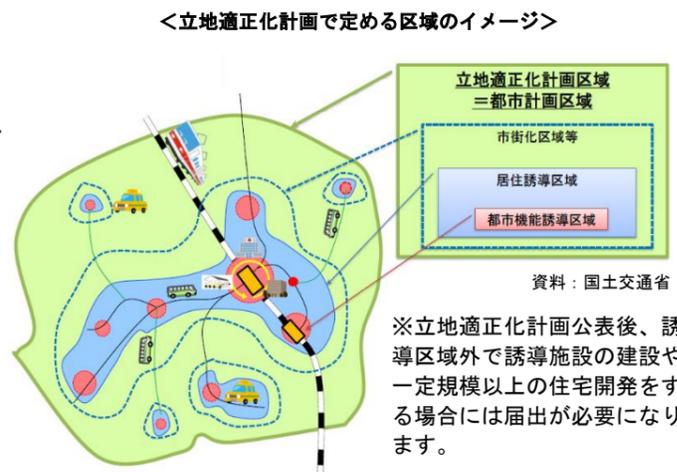


### 立地適正化計画で定めること

多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向け、目指すまちづくりの方針や、どこに何を誘導するのか（誘導施設や誘導区域の設定）を検討します。

#### 立地適正化計画の主な内容

- 計画対象区域
- 立地適正化の基本的方針
- 都市機能誘導区域・居住誘導区域
- 施策の達成状況の評価



## 2. なぜ那珂川市で立地適正化計画が必要？

### 将来的な人口減少・高齢社会への対応

那珂川市は、平成27年の国勢調査では人口5万人を達成し、平成30年10月1日に市制を施行するなど、現在においても人口増加と発展を続けています。

しかし全国的な傾向と同じく、将来的には人口減少や高齢化の進行が予測されています。このような状況を踏まえ、那珂川市では若者の就労機会の創出や子育て環境の充実など定住のための各種施策を行っています。それと同時に、立地適正化計画の策定により、**将来の人口減少・高齢化に備えた、コンパクトなまちづくり**を行っていくことがねらいです。

### 積極的なまちづくりの推進

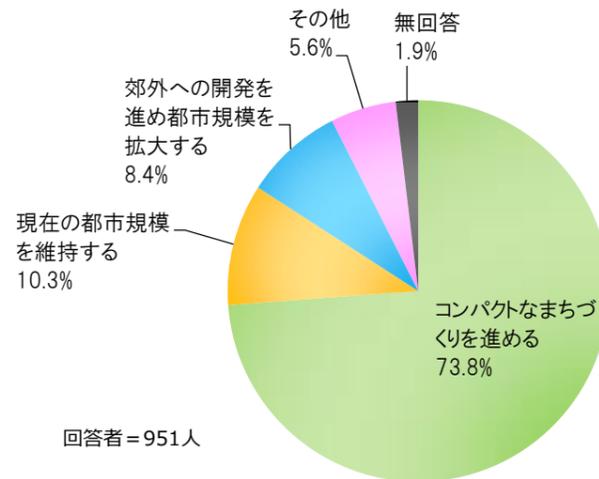
立地適正化計画を策定した市町村においては、届出・勧告制度や国の各種支援措置を使用することが可能になり、**居住機能や都市機能をより積極的に誘導することができるようになります。**

また、立地適正化計画には、市町村の都市計画の基本的な方針を示す、「都市計画マスタープラン」を実現化するツールとしての役割もあります。那珂川市の都市計画マスタープランでは、主要な拠点（右図ピンクの拠点）に加えて、計画的な新しい市街地の創出（黄色の区域）を検討することとしています。コンパクトなまちづくりを行う上で、**これまでの拠点と新たな拠点の位置付けを明確にしなが**ら、計画的なまちづくりを行っていくことも、那珂川市における立地適正化計画の目的の一つです。

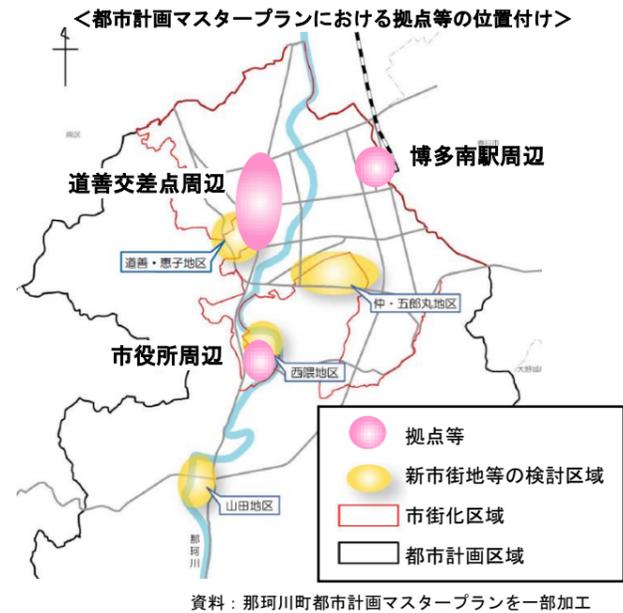
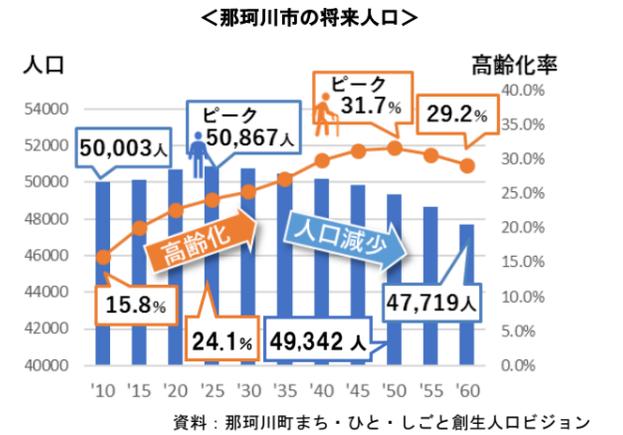
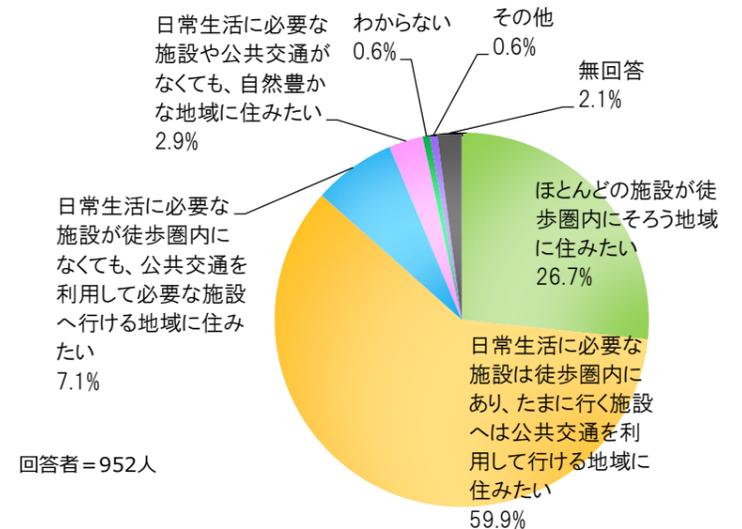
### コンパクトなまちづくりに対する市民の声

市民アンケート結果においても、今後の持続的な発展に向け、コンパクトなまちづくりを進めるべきという意見が7割以上を占めています。また、将来住みたい地域として、様々な施設や公共交通の充実が求められています。

#### ＜那珂川市が持続的な発展を遂げるために行うべきまちづくり＞



#### ＜自家用車を使用しないと想定した場合住みたい地域＞

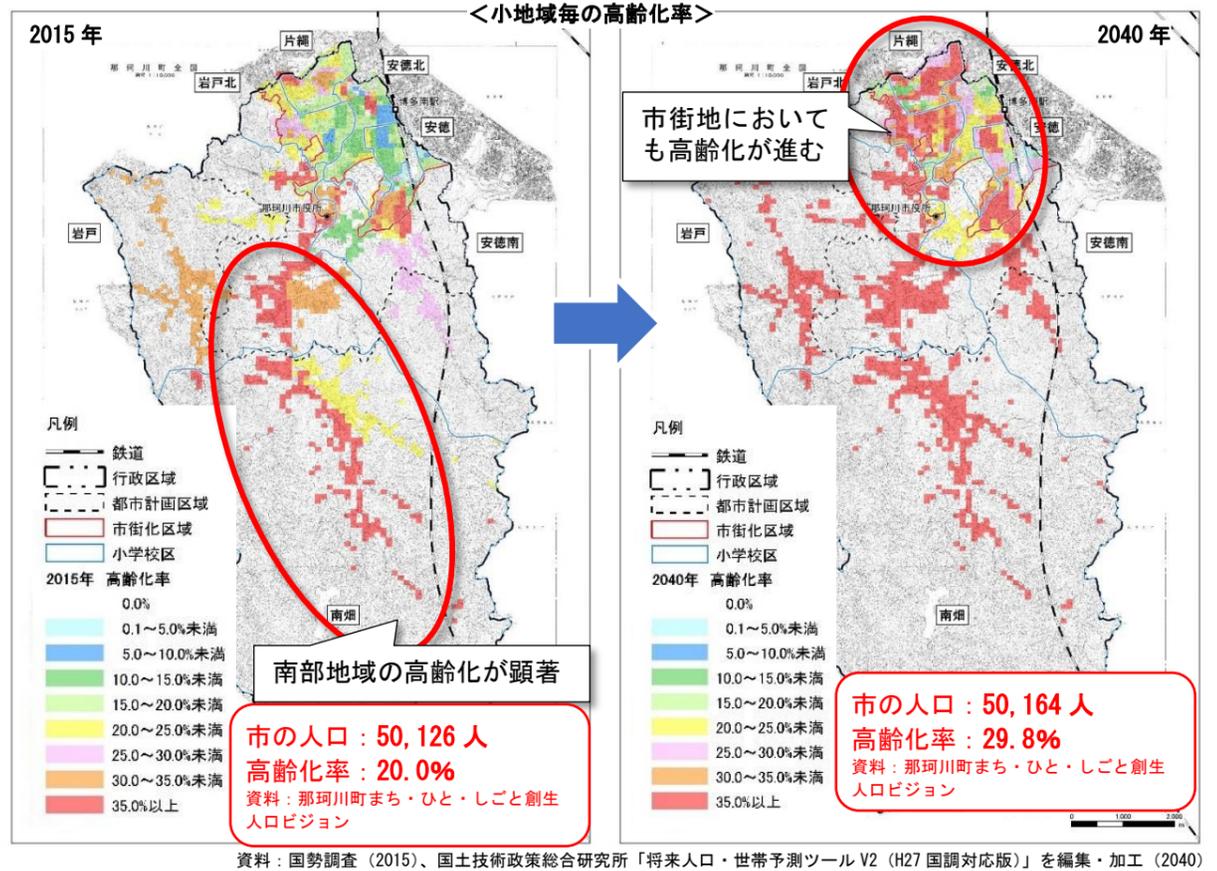


資料：コンパクトなまちづくりに関する市民アンケート（H30実施）

### 3. 那珂川市の都市構造上の課題や強みは？

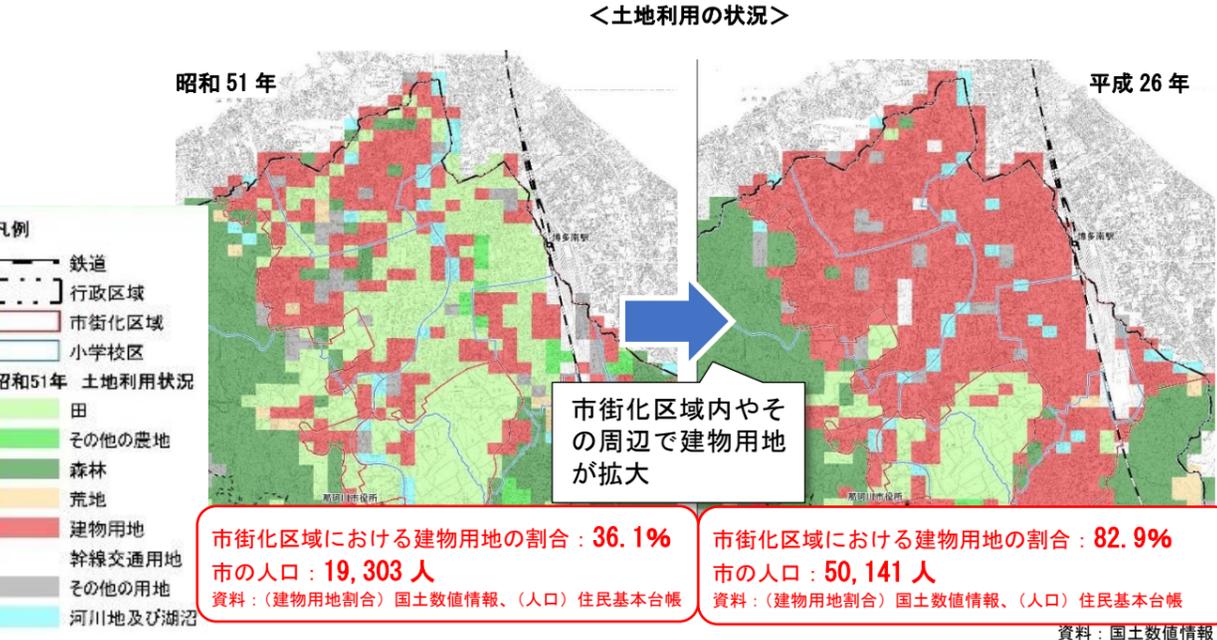
**人口**

- ・将来的な人口減少・高齢化が予測され、将来を見据えたまちづくりが必要です。
- ・現在は、南畑地域など南部地域で高齢化率が高い状況ですが、将来的には市街地内でも高齢化が進むことが予測されます。



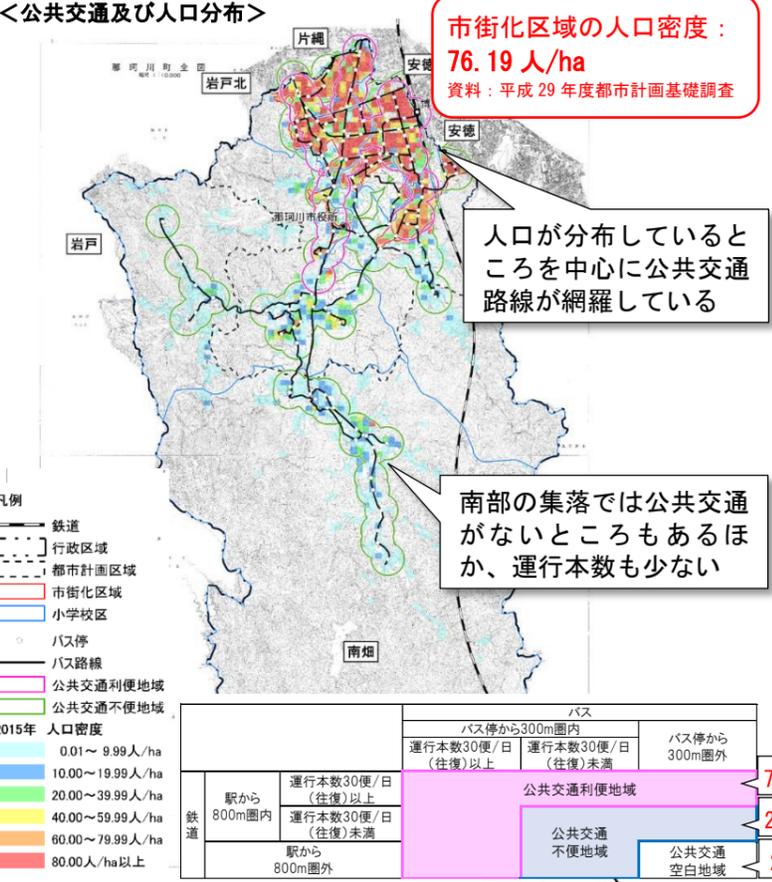
**土地利用**

- ・福岡市に隣接する北部地域を中心に市街地が拡大してきました。今後は市街地の無秩序な拡大や、市街地内の空き家・空き地の発生を防ぎ密度の高い市街地の維持が必要です。
- ・市街化区域内にまとまった低未利用地が存在しないことから、新たな都市機能立地の受け皿となる土地を確保することも課題といえます。



**都市交通**

- ・JR博多南線や、西鉄路線バス・かわせみバスがあり、公共交通が徒歩圏内ない公共交通空白地域に住む人の割合は2.6%です。
- ・しかし、公共交通に対する市民ニーズは高く、高齢化により今後もさらなる充実が必要です。



**その他の課題等**

**経済**

- ・小売業・卸売業の事業所数や年間商品販売額は、増加又は維持傾向です。今後の人口減少の中でも、小売業の集積とその周辺の人口密度の維持を図り、経済活動の低迷を防ぐことが必要です。
- ・市民アンケートでは、市街地の魅力を高めるために「働く場が必要」との声もあり、定住確保の側面からも安定した経済活動を行える環境形成が重要です。

**財政**

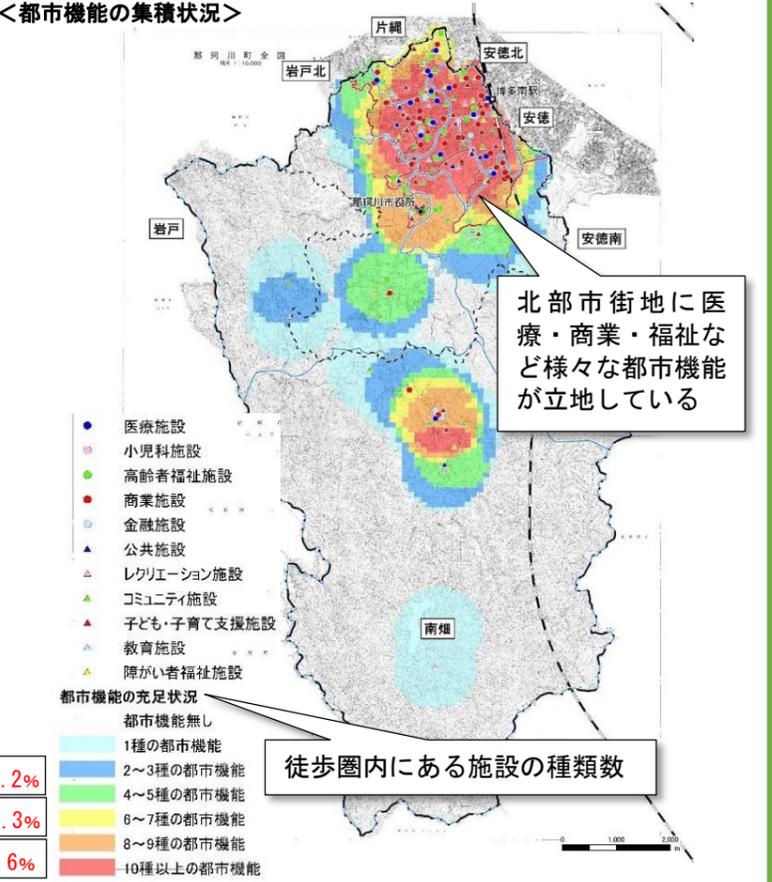
- ・税収の多くを占める固定資産税や市民税は、市街化区域内での割合が高く、今後市街化区域内の人口減少が進むと税収の減少に大きく影響します。
- ・高齢化に伴い、高齢者福祉など社会保障費が増大すると、公共施設の維持管理等にかかる予算が確保できない恐れがあります。

**災害**

- ・河川の氾濫や土砂災害の危険性のある区域においても、一部居住地となっており、安全な場所への居住誘導や、適切な防災対策により、災害に強いまちづくりが必要です。

**生活利便性**

- ・北部市街地における各種施設の充足状況は比較的高く、今後も都市機能の維持により利便性の高いまちづくりを行うことが重要です。
- ・中南部地域は、北部市街地と公共交通で接続することで利便性を確保していく必要があります。



**那珂川市の強み**

**若さと勢いがある！**

那珂川市は「那珂川市」になります

- ・平成30年10月に単独市施行され、市になった那珂川市では、それに伴うまちのPRなど各種取組がなされています。
- ・福岡県下で3番目に年少人口（15歳未満）が多いなど、若者・子どもが多いことも特徴です。

**近隣市町との広域的な連携が可能！**

博多駅まで約8分！

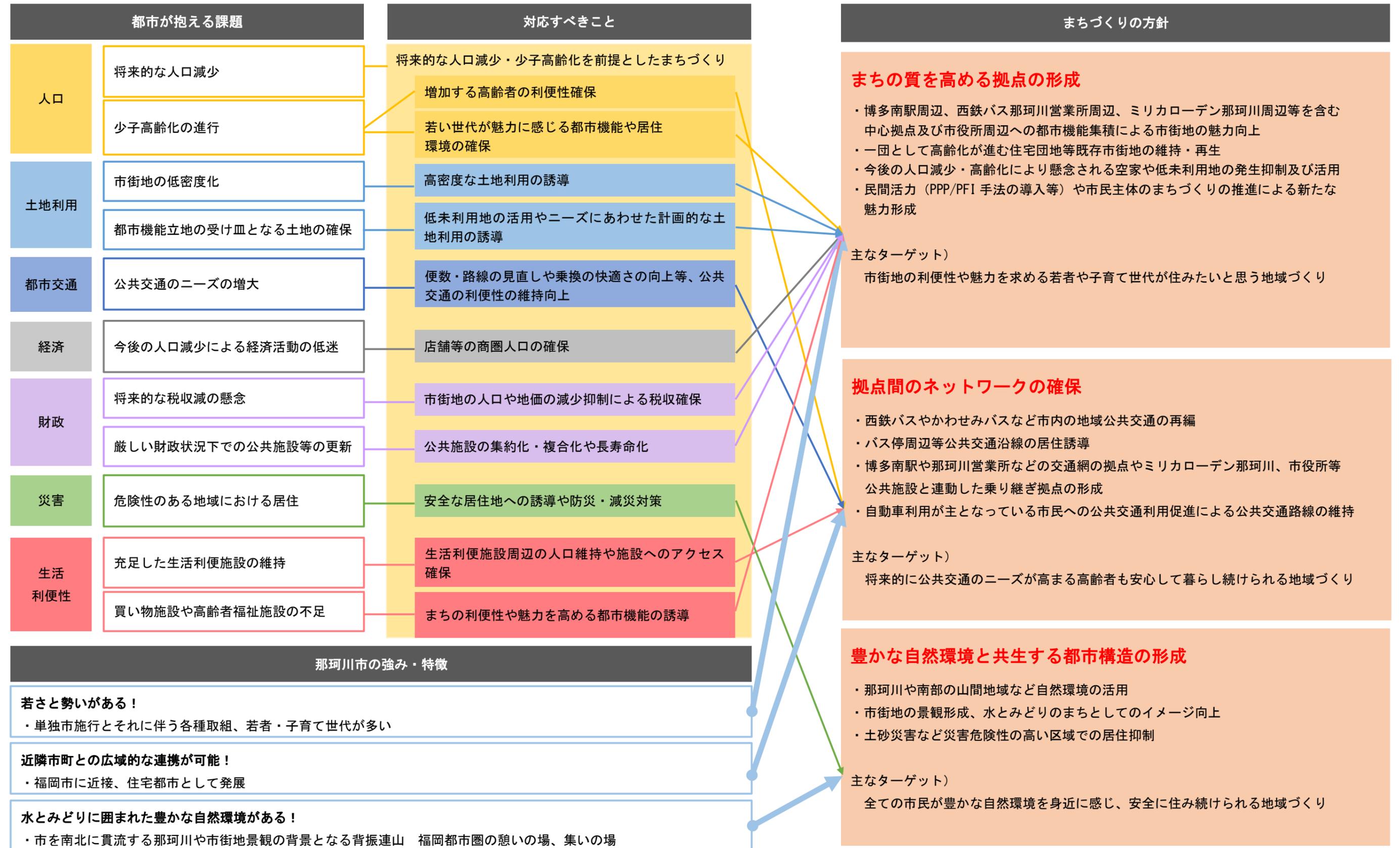
- ・那珂川市の北部は福岡市に隣接し、JR博多南線では、博多駅まで約8分でアクセスが可能です。
- ・道路ネットワークにより春日市や佐賀県など周辺市町との連携も可能です。

**水と緑に囲まれた豊かな自然環境がある！**

- ・まちを南北に貫流する那珂川をはじめ、南部の田園や森林など、市街地から身近なところに豊かな自然環境があることは、本市の特徴であり、魅力といえます。

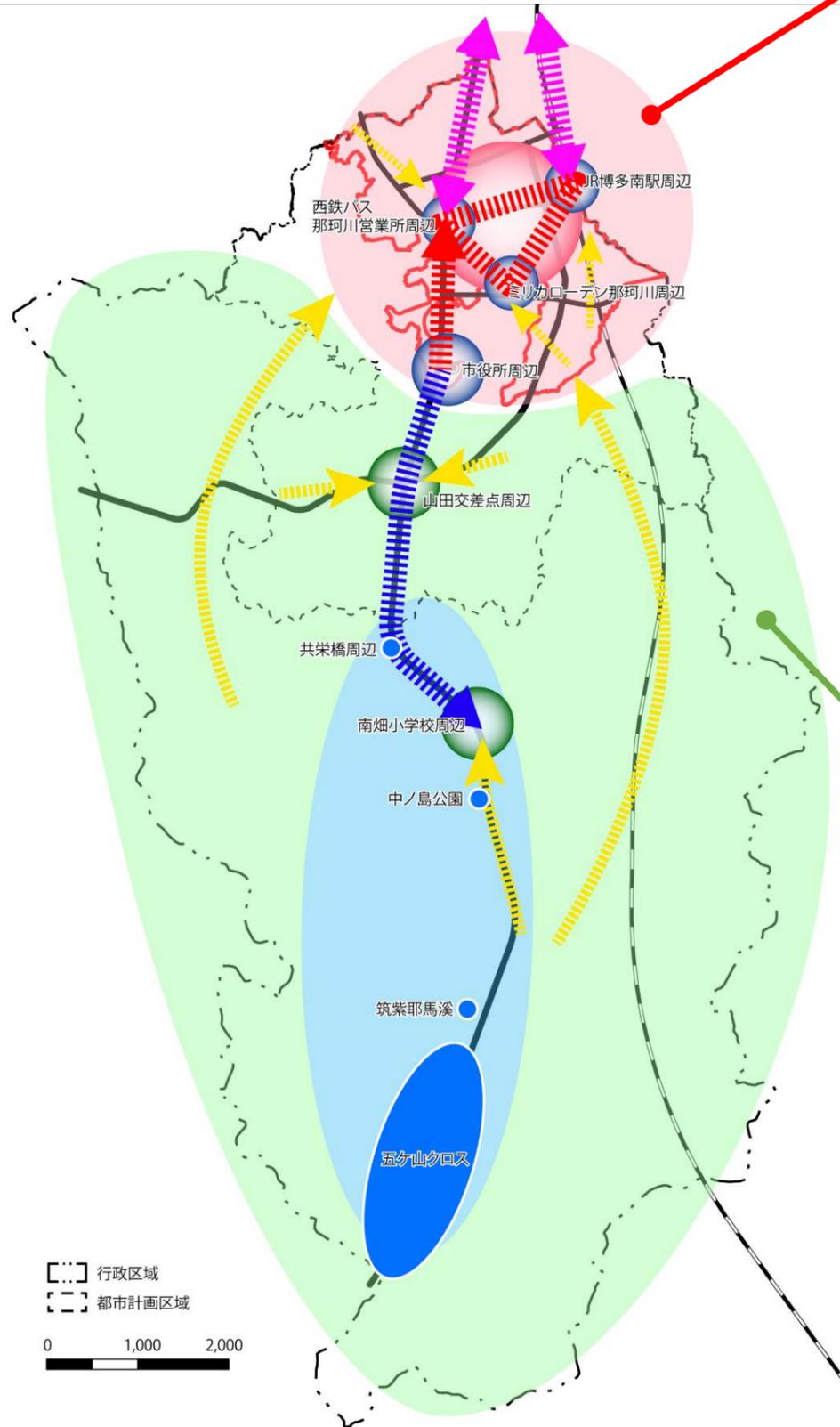
## 4. どのようなまちづくりを目指すの？

課題や強みからみたまちづくりの方針（案） 那珂川市が抱えるまちづくりの上での課題や、那珂川市の特徴を踏まえた上で、立地適正化計画におけるまちづくりの方針を以下のとおり検討しています。



**将来都市構造（案）**

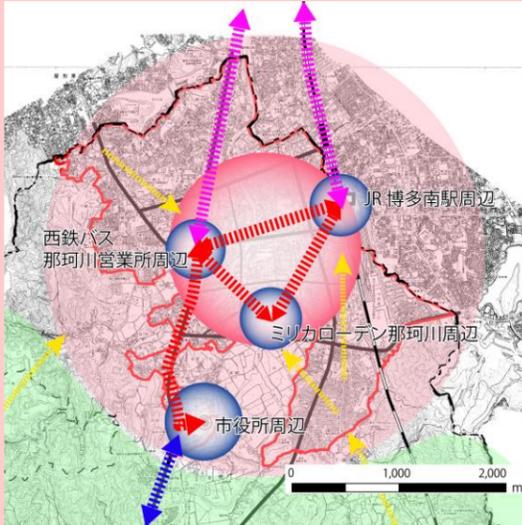
人口の集積、医療・商業・福祉や公共施設等の施設の充足状況、公共交通路線等の把握から、那珂川市において重要な拠点やネットワークを位置づけた将来目指す都市構造の位置付けを以下のとおり整理しました。



**北部市街地** 都市機能や居住がコンパクトに集積した利便性の高いまちの形成とその質の向上

市街化区域内には、本市の人口の約86%が居住し、都市機能も集積したコンパクトなまちが形成されている。ニーズの高い地域内外の公共交通の充実や、市外に流出の多い医療や大型商業施設の誘導等まちの質を高める拠点の形成に向け以下の視点により拠点設定を行う。

視点①公共交通の要所となる地区 視点②多様な都市機能が充実する地区



拠点の種類	まちな核	位置づけ
 中心拠点 3つの核を含む中心拠点。 3つの核やそれらをつなぐ道路沿道において、医療、商業、子育て機能、公共交通等の都市機能のさらなる充実により、利便性の高い居住環境を形成する	 JR博多南駅周辺	福岡市中心部への交通結節点、市の顔として都市機能の誘導や土地の高度利用を図る
	 西鉄バス那珂川営業所周辺	市内外を走る西鉄バスやかわせみバス等バスネットワークの要所として、道路沿道や周辺の都市機能の誘導を図る
	 ミリカローデン那珂川周辺	文化・体育・子育て施設等の施設集積を活かし、拠点周辺の新たな市街地創出も含め医療・商業・福祉等の都市機能誘導を図る
行政・福祉拠点	市役所周辺	北部・南部の接続点に立地する本市の行政・福祉の拠点として、様々な行政サービスの強化を図る

※まちな核として設定している箇所の中には、将来的に市街化区域への編入を検討している市街化調整区域も含まれる。

**南部の自然環境** 市内外からの観光交流を呼び込む豊かな自然環境の活用と集落環境の保全

那珂川を軸に田園・森林等が広がる南部地域は、福岡都市圏や佐賀県からもアクセスできる豊かな自然環境を活かした観光交流や農林産業等のポテンシャルを持つ地域である。地域住民や移住者の生活利便性の維持やコミュニティの形成、観光交流の場の創出に向け以下の視点により拠点設定を行う。

視点①都市機能がある程度集積し、市街地へのアクセスが可能な地区 視点②観光・交流施設等レクリエーション拠点となる地区

拠点の種類	設定イメージ	位置づけ
地域拠点	 山田交差点周辺、 南畑小学校周辺	南部地域の住民の生活・コミュニティの拠点として、生活に係る施設の維持や北部市街地へのアクセス拠点としての機能強化を図る
レクリエーションゾーン	 中ノ島公園や五ヶ山クロス等のレクリエーションスポットのある南部の地域一帯	水や緑の自然環境を活用し市内外の観光交流を呼び込む憩いや安らぎの場としての機能を確立する

**ネットワーク** 福岡都市圏との連携や市内の拠点間の連携による拠点機能の相互補完

商業・医療等の施設利用や通勤・通学等福岡都市圏との密接な関係にあることから、広域的な連携軸の確保を図るほか、市内の公共交通においては、市街地内の拠点間の連携、南北の連携を軸としたネットワークの形成を図る。

拠点の種類	設定イメージ	位置づけ
広域交流軸	 JR博多南線、バス	市民生活に密接に関係する福岡都市圏との連携
市街地拠点連携軸	 バス	拠点周辺に集積する都市機能の円滑な相互利用に向けた拠点間の連携
南北連携軸	 バス	市外や北部市街地の住民の自然環境の享受と南部地域住民の生活利便性の要となる南北連携
支線交通ネットワーク	 バス、 デマンド交通	北部市街地内の拠点への移動や、南部地域の集落から市街地・地域拠点への移動